

Ⅲ 次の文章〔1〕～〔4〕を読み、空欄〔A〕～〔G〕にもっとも適切な語句を記入し、かつ(a)～(h)の問いに答えよ。

〔1〕 明治政府発足後、政府内で欧米の政治形態に学んで国会開設や憲法制定を求める声が起こったが、実現に至らなかった。そうしたなか、征韓論政変で下野した板垣退助らは〔A〕を結成して、①民撰議院設立建白書を太政官の左院に提出し国会の開設を求めた。これを契機として自由民権運動が広がりはじめた。

当初、自由民権運動は士族を中心に進められたが、その後②豪農層が参加し、国会期成同盟が結成されて国会開設請願運動が展開した。政府内でも参議大隈重信は即時国会開設を主張したが、これに対して参議伊藤博文らは漸進論を唱えた。〔B〕年に開拓使官有物払下げ事件が起こり、民権派の政府批判が激しくなると、政府は、大隈を罷免するとともに、1890年の国会開設を約する国会開設の勅諭を発した。この後、薩長藩閥政府の主導により国会開設が準備される一方、国会期成同盟を中心にして板垣を党首とする自由党が結成され、また、大隈を党首とする立憲改進黨が結成された。しかし、激化事件が相次ぐなかで、急進的な自由党員の動きに動揺した自由党指導部は自由党解党を決議した。

(a) 下線部①に関連して、民撰議院設立建白書はイギリス人ブラックによって創刊された新聞に掲載された。この新聞名として、もっとも適切なものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|----------|------------|
| ㉞ 『国民新聞』 | ㉞ 『日新真事誌』 |
| ㉟ 『万朝報』 | ㉟ 『郵便報知新聞』 |

(b) 下線部②に関連して、1878年には豪農層の政治参加を促した地方三新法が制定された。地方三新法として、適切でないものを下から一つ選び、記号で答えよ。

- | | |
|---------|-----------|
| ㉞ 地方税規則 | ㉞ 郡区町村編制法 |
| ㉟ 府県会規則 | ㉟ 戸籍法 |

〔2〕 1889年2月11日、大日本帝国憲法が公布され、1890年には第1回衆議院議員総選挙が行われた。選挙後、旧自由黨員らは合同して立憲自由党を結成し、翌年には自由党と改称した。初期議会において、自由党は立憲改進黨とともに「政費節減・民力休養」を唱え、政策は政党の動向に左右されないという **C** の立場をとる政府と軍拡予算をめぐる激しく対立した。しかし第4議会でいわゆる和協の詔勅が出ると、自由党は海軍軍拡予算に賛成した。さらに日清戦争が始まると、政党は政争を中止し戦争に協力した。

日清戦争後、政府はロシアとの戦争に備えた軍備拡張をすすめるため、政党の協力を必要とした。他方、政党の支持基盤である地主や資本家は治水や道路拡張などを実現するため、政府の予算を必要とした。こうしたなか、政府と政党はしだいに接近し、1896年には自由党の板垣退助が第2次伊藤博文内閣の内相となった。しかし、第3次伊藤博文内閣が地租増徴案を提出すると、自由党は進歩党とともにこれを否決し、両党は合同して **D** を結成した。第3次伊藤内閣の退陣後、**D** を与党として、最初の政党内閣である第1次大隈重信内閣が誕生した。しかし、**D** はまもなく分裂し、第1次大隈内閣はわずか4ヶ月で倒壊した。旧自由党系のメンバーは **D** を再組織し、第2次山県有朋内閣の地租増徴案に賛成したが、その後、同内閣が政党の③軍部・官界進出を抑制する政策をとったため、これに反発を強め、政党結成をめざしていた伊藤博文と合流して立憲政友会を結成した。伊藤は、立憲政友会を率いて第4次内閣を組織したが、貴族院の反対に苦しんで退陣し、かわって山県系官僚を多く大臣とした④第1次桂太郎内閣が成立することとなった。

以後、桂太郎と立憲政友会の2代総裁西園寺公望が交互に政権を担当し、相互に協力しあっていた。これは、立憲政友会が政権担当政党として国家の中に定着したことを示すものであった。